

堺のがんばる企業応援マガジン

さかい

IPC

SAKAI CITY  
INDUSTRIAL PROMOTION CENTER  
PRESS

PRESS 2012.10 vol.25



INDEX

特集・堺のものづくりを世界へ 1

独自の視点、独自の技術で

世界のマーケットに進出

タミノイ酢株式会社 / 日本スーパー工業株式会社 / 株式会社中村超硬

気になる「さかい人」録 9

伝統的な竹工芸の技法で新しい時代のアートを  
竹工芸作家 田辺小竹さん

さかいモノ語り 11

堺の街で独自の製法が編み出された「線香」  
堺線香工業協同組合



公益財団法人

堺市産業振興センター

Sakai City Industrial Promotion Center <http://www.sakai-ipc.jp/>

# 独自の視点、独自の技術で 世界のマーケットに進出

国内需要の低迷などにより、今や海外にマーケットを広げないと、事業の拡大を望むことはできません。かといって、人件費の安い新興国と同じ土俵で戦えば、価格競争に陥るばかり。そうしたなか、堺市内には、自社独自のオンライン技術で、世界市場に進出する企業が多くあります。今号は3社を紹介します。

タマノイ酢株式会社 谷尻真治 海外事業部部长

## 日本が誇るおいしいお酢を アジアへ、そして欧米へ

「老舗」に安住せず、  
常に新しいことにチャレンジ

豊臣時代にすでに「玉廻井(たまのい)」という称号が残されているタマノイ酢株式会社。創業百余年を数える老舗企業ですが、播野勤社長は常々「受け継がれた伝統を守るだけでなく、新しいことに挑戦し、時代の変化に対応していくことが必要」と語られているのだとか。その精神は、同社の製品にも生きています。

例えば、1996年発売の「はちみつ黒酢ダイエット」は、「飲むお酢」の火付け役ともなった大ヒット商品。酢の用途を、調味料のほかにも広げたいと菓子飲料部門を立ち上げてから、開発20品目



大ヒット商品の「はちみつ黒酢ダイエット」は、国内だけでなくバリの食品見本市でも金賞を受賞。発売から来年で50年になるお酢を粉末化した「すしのこ」は長年、海外の日系人たちを中心に愛されている。



国際レストラン&フードサービスショーには、「堺産品海外セールス実行委員会」が堺ブースを設置。正会員である同社もそこでお酢ドリンクなどをアピール。百社を超える企業などから問い合わせがあった。

の成功でした。「社内でも難しいとされたドリンクへの挑戦でしたが、『あきらめない』のスローガンのもと開発を続けた結果ですね」と海外事業部の谷尻真治部長は語ります。

## 現地で築いた人脈を活かし、お酢ドリンクの販売を拡大

その「はちみつ黒酢ダイエット」が、今や中国を中心とする東南アジアでも、健康や美容に関心の高い女性たちの間で人気商品となっています。

同社が香港、上海、シンガポールに事業所を開設したのは2008年。製造業と異なり、海外進出の遅い食品業界では大手企業を除いては早い進出です。「現



「かつてから若い人や女性を積極的に起用してきた当社のエネルギーを、海外での事業展開にも活かしていきたい」と谷尻部長。

地のことは全くわからないまま、社員を派遣しました。情報収集や市場調査から始まり、5年目に入る現在まで、ネットワーク作りやブランド作りを進めています」と谷尻部長。現在は日本で紹介された企業だけでなく、現地で探し出した企業とも取引をしているとのこと。「どれだけネットワークを築けるかが大事なポイントです。地道な活動で得た人脈により、香港の高級スーパーで大きな売り場を確保できたり、私たちが思ってもみなかったところでは、化粧品売り場にドリンクが置かれたりしています(笑)」(谷尻部長)。

## 「世界のマーケット」を視野に、ニューヨークに拠点を開設

同社は、今年3月にニューヨーク(NY)



国の人事院国際課が行った人事行政セミナーに協力、発展途上国12ヶ国の研修者が同社を訪れた。

で行われた「国際レストラン&フードサービスショー・オブ・ニューヨーク2012」にも参画。レストランを中心に、同社製品のプレゼンテーションを行いました。

世界中からの情報や人材の集積地であるNYに、オフィスを開設したのは2010年。その向こうにアメリカだけでなく、「世界」への拡販をも見据えてのことだと谷尻部長は語ります。「昨今は日本の外食産業やスーパー業界の海外進出が盛んです。当社も日本で作った製品を海外に輸出していますので、現地で一緒に頑張っていきたいですね」。

世界中でその土地特有のものが生産されている酢は、どの国でも馴染み深い調



「あきらめない」の社風は、今も引き継がれている。



香港では、売り場の一角をタマノイ酢製品が占めるスーパーも登場。

味料ですが、日本の米酢となると、どうしても「日本食」の枠から出ないと。一般家庭への普及の道のは遠いと谷尻部長は話します。しかし、人口が多く購買力も大きなアジアへの期待は高まるばかり。「今後は、その地域でこういったものが望まれているのかを吸い上げて商品化できれば」と抱負を語っています。

## タマノイ酢株式会社

代表者/代表取締役社長 播野 勤  
 本社/堺市堺区車町西1-1-32  
 TEL/072-238-1021  
 設立/1907年創業  
 資本金/2億円  
 従業員数/300名  
 事業内容/醸造酢、粉末酢、各種調味料、レトルト食品および菓子・健康飲料などの製造・販売



<http://www.tamanoi.co.jp/>

日本スーパー工業株式会社—広瀬哲士取締役

# 高精度高性能のHDDハブで 世界のトップシェアを獲得

## ±0.3ミクロンという 超精密金属加工が武器

コンピュータのハードディスク（HDD）用のモーター部品や自動車のエアバックステム部品などの精密な金属加工を得意とする日本スーパー工業株式会社。なかでも、HDDスピンドルモーター用のハブについては、2・5インチHDDのハブで世界トップのシェア約40%を誇っています。HDD市場における揺るぎない地位を確立するまでの経緯を広瀬哲士取締役にかがいました。

「以前はカメラやビデオの部品を加工していましたが、やがて注文は海外に流れてしまいました。そうしたなかで、HDDの製造に携わることになったのです。当初はHDDの容量も20〜30GB（ギガバイト）と小さく、精度も今ほどシビアではありませんでしたが、その後、大容量化が進み、今では500GBも当たり前です。1台のHDDの中に数ミリ間隔でディスクが重ねられるようになり、ハブもわずかでもぶれてはいけません。高度

な回転性能が必要となったのです。当社は±0・3ミクロンという精度の中で、真円に金属を加工する技術を磨いたのです」。

## 高精度高性能な製品を 大量に安定供給

しかし、技術力が高いだけでは、世界トップシェアの生産力を維持することはできません。どれほど優秀でも数人の技術者の手に委ねるわけにはいかないのですから。世界トップシェアということは、そのまま供給責任が発生することです。



世界のトップシェアを誇る2.5インチHDD用ハブ



同社の強みは、高精度、高性能の製品を大量に、そして安定して供給し続けているところにあります。岡山工場内に設けられた工法開発部門では常に、製造プロセスや製造技法だけでなく、工具や加工機までを含めた研究開発が行われています。

そのために、得意先企業でモーターの設計が始まる段階から参画。部品の作り込みについて、開発から提案を行うといえます。また、製品の検品については抜き取り検査が一般的ですが、同社では1日70万個生産される製品の全てを、加工機が全品検品するように設計されているのだとか。そのあくなき高品質への追求が、得意先企業の高い信頼を獲得している

「社内で製造上の課題を検証し、解決する能力があります。つまり開発のスピード感が違う。それが我々の強みの一つだと思いますね」と泉北工場長をも務める広瀬取締役。

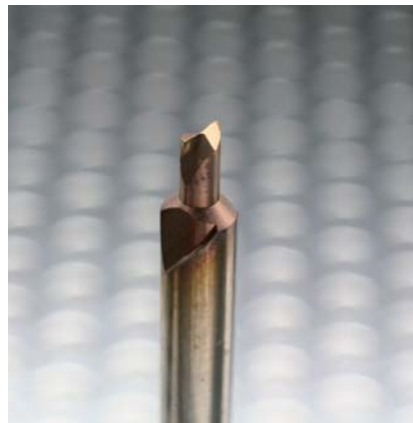


### 経営のリスク分散のために 新たな事業の柱の開拓を

る理由でしょう。そして、それが世界トップシェアにつながる受注につながっているのです。

現在、同社では得意先企業の組立て工場に近いタイやフィリピンにも工場を置き、国内外4カ所の生産拠点を持っています。

「昨年のタイの洪水の時は、工場の機



製造に必要な工具さえ自社で内製する。ラジアルエンドミル(左)とチャック(右)。

能はマヒしたのですが、フィリピンと日本からいち早く製品を供給することができました。図らずも生産拠点が分散していたことで、リスクも分散できたわけです。

今後は同様に、経営におけるリスク分散として、売上げの大半をHDDに依存している現状から、新たな事業の柱の開拓が経営課題だと広瀬取締役。高精度高性能な製品を、大量に安定供給できる仕組みを築き上げた同社独自のノウハウが、新たな産業分野で花を咲かせることは遠い日ではないでしょう。



タイ工場



フィリピン工場



「お客様から求められていることが何なのか」を全社で徹底的に追求する、その真摯なものづくりの姿勢が高い評価を得ている。

#### 日本スーパー工業株式会社

代表者／代表取締役社長 広瀬憲三  
 本社／堺市南区原山台5-12-1  
 TEL／072-293-1666  
 設立／1961年  
 資本金／9,950万円  
 従業員数／270名  
 事業内容／コンピューター  
 ハードディスク  
 用モーター部品、  
 エアバックシス  
 テム部品、アル  
 ミ冷間鍛造、特殊切削工具



<http://www.nippon-super.jp>

株式会社中村超硬—井上誠社長

# 工具や技術の開発にとどまらない、課題解決型ビジネスで世界へ

## エネルギー環境分野で新しい事業の柱を

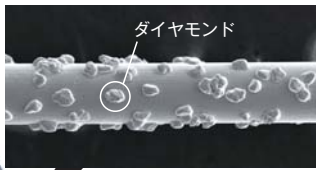
社名にある通り、創業時代の超硬合金から始まり、PCD（ダイヤモンド焼結体）へと「超硬」にこだわったものづくりで、業界をリードしてきた株式会社中村超硬。工作機械や産業機械の部品製造を基幹事業として大きく成長してきました。なかでも、携帯電話やパソコンなどの電子部品をプリント基板に実装するダイヤモンドノズルでは世界トップシェアを誇っています。

しかし、ITバブルの崩壊などを受けて、設備投資に依存するビジネスの不安定なことに危機感を抱いた井上誠社長は、これからの成長産業であるエネルギーや環境といった産業分野から、新たな事業の柱を築こうと考えました。そこで着目したのが、ダイヤモンドソーワイヤです。太陽電池で使用するシリコンインゴットをウエハ状にスライスするためのダイヤモンドソーワイヤ自体はすでに市場にありましたが、高価なため普及していま

せんでした。同社がダイヤモンドソーワイヤの低価格を実現する製造法の研究開発に着手したのが、今から8年前のことです。

## 高性能で低価格のダイヤモンドソーワイヤを開発

必ず答えがあるという確信を得られな  
いまの開発でしたが、大学の協力も得  
て、同社は髪の毛よりも細いワイヤに、



ダイヤモンドソーワイヤ拡大



3年という歳月をかけて、極細のワイヤにマイクロレベルのダイヤモンドの粒を高速で固定させるのに成功。



ミクロン大のダイヤモンドパウダーを従来技術よりも高速で固定化させることに成功。しかもダイヤモンドの保持力も高めて長寿命化も実現しました。ついに高性能で低価格のダイヤモンドソーワイヤを作り出したのです。

しかし同社はすぐにそれを単体で売り出さず、まず自社内でダイヤモンドソーワイヤを使ったスライス加工事業を立ち上げたのです。井上社長は「後発参入ということもあり、まず自社で性能を実証しようと考えました。それに弊社の強みは、お客様のものづくりにおける課題を解決するための工具や製法をパッケージで開発し、ご提案するソリューション型ビジネスです。ソーワイヤとそれをとり

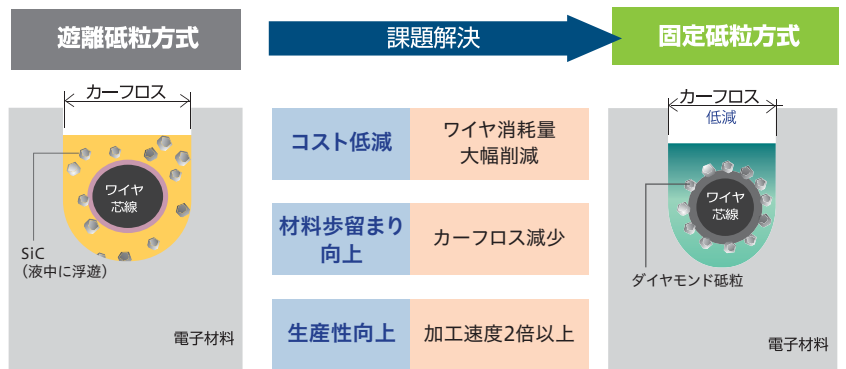
昨年の「第4回ものづくり日本大賞」で経済産業大臣賞を受賞した井上社長。今は株式公開という新たなチャレンジに向けて準備中だと語る。



まぐ周辺技術とを組み合わせることでアピールすることにしました」と語っています。

**世界のオンラインワンとして  
独自のビジネスモデルを展開**

現在は、業界全体の技術革新に寄与すべくダイヤモンドソーワイヤの販売を始めていますが、それでもソーワイヤの製造・販売と、そのコストパフォーマンスの高さを活かした量産スライス加工の両事業をリンクさせた同社の「クローズドループ開発体制」は、世界に類のないオ



ワイヤにダイヤモンドの粒子を固定することにより、さまざまな課題を解決。太陽光パネルやLEDといった産業分野での活躍が期待される。

## 堺市内における企業投資支援制度のご案内

堺市では、市内の工業適地(工業専用地域、工業地域、準工業地域)への企業進出・移転や、これらの地域における既存立地企業の追加設備投資を応援します。

### 【堺市企業立地促進条例】

市内の工業適地において一定額以上の投資をしていただいた際に市税(固定資産税・都市計画税・事業所税(資産割))を軽減する制度です。

- 対象業種：製造業、運輸業 等
- 対象区域：工業専用地域、工業地域、準工業地域
- 優遇内容：建屋及び償却資産に係る投下固定資産額に応じた軽減(最大5年間)  
(中小企業の場合には1億円以上の投資で適用)

これに加え、堺市内でのマザー工場の新設・既存工場のマザー工場化のための研究開発機能強化に対する投資を応援します。

### 【堺市中小企業研究開発機能強化支援補助金制度】

#### ▶お問い合わせ先

堺市産業振興局商工労働部産業政策課  
〒590-0078 堺市堺区南瓦町3番1号  
TEL 072-228-7414 FAX 072-228-8816  
E-mail : sansei@city.sakai.lg.jp  
[http://www.city.sakai.lg.jp/city/info/\\_sansaisui/](http://www.city.sakai.lg.jp/city/info/_sansaisui/)

ンリーワンビジネスモデルとして注目されています。

「リーマンショックなどにより、家電業界も落ち込み、当社も打撃を受けましたが、そのさなかにソーワイヤ事業のための新工場Downtownの建設を決意しました。それは大きな経営判断でしたが、半年後には黒字化しています。そうしたチャレンジ精神が大切だと思いますね。国内の需要が落ち込むのなら、海外にマーケットを求めれば良い。堺のものづくり企業にはそれだけのポテンシャルがあると信じています」(井上社長)。

### 株式会社中村超硬

代表者 / 代表取締役社長 井上誠  
本社 / 堺市西区鶴田町27-27  
TEL / 072-274-0007(代)  
設立 / 1954年創業 1970年設立  
資本金 / 13億187万5千円  
従業員数 / 164名  
事業内容 / 特殊精密部品の設計・製造・販売、切削工具の設計・製造・販売、ダイヤモンドソーワイヤの製造・販売、電子材料のスライス加工



<http://www.nakamura-gp.co.jp>

# 統産業を子どもたちに伝えよう！ 体験イベントを実施

いろいろな案を出して、一つのものを作っていくことが楽しかった」など、みんな興奮気味に話します。参加者の保護者は「この6日間、楽しんで行っていましたし、家に帰ってからもチラシなどを熱心に作っていました。夏休みの宿題はまだできていないようなんですが(笑)、勉強より一生懸命にやっていました」。

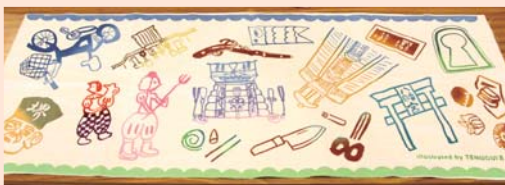
また、ご協力いただいた伝統産業の職人の皆さんは「こんなお香がいいとか、いろいろな意見をどんどん言ってくれて、子どもたちからパワーをもらいました。線香やお香の未来も捨てたもんじゃないと、改めて感じました」(堺線香工業協同組合 鈴木さん)、「堺にこんな伝統産業があるのだと、見直してもらう良い機会になりました」(堺注染和晒興業会 西川理事長)、「子どもたちに和菓子に親んでもらいたいというのが、私の以前からの思いでしたので、今回の指導は楽しかったですね。子どもたちは私たちが思いもよらない自由な発想で、商品化には苦勞もありましたが、なかなか良い和菓子ができたと思います」(堺市ものづくりマイスター おかよし 味匠庵 店主・岡田さん)と、感想を語られました。

今回のイベントは、参加した子どもたちに貴重な体験となり、堺の伝統産業の活性化にもつながったようです。

なお、今回子どもたちが企画した商品は、今後堺の伝統産業の逸品や特産品を販売するネット商店街「イーモール堺」(<http://www.emallsakai.com/>)で販売する予定です(発売日未定)。

## 今回の就業体験で子どもたちが企画した商品

### ●注染チーム



「TENUGUI 8」の堺の名所、名物をデザインした手ぬぐい。

### ●線香チーム



「レインボー+1」の堺香。



子どもたちが作ったチラシ。

### ●和菓子チーム



「ネコ和菓子大好きチーム」の堺のクマッ子(抹茶あんブッセ)。



「チーム和菓子」の陵の四季。



「和菓子作り名人 HA-CHAN 'S」の恋のほり。

## 堺の伝統産業の逸品をネットで販売！

堺の特産品ネット商店街  
「イーモール堺」  
<http://www.emallsakai.com/>

堺の伝統産業の逸品の特産品をインターネットで購入できるようになりました。

モールタイプのネット商店街で、刃物、線香、注染、昆布、調味料、和菓子、敷物のなかから選りすぐりの商品を販売いたします。

### 取り扱い商品

刃物(20品)、線香(7品)、注染(4品)、昆布(5品)、調味料(2品)、和菓子(20品)、敷物(10品)

### お問合せ

堺伝統産業会館 TEL 072-227-1001

公益財団法人 堺市産業振興センター TEL 072-255-1223

イーモール堺

検索





# 伝の堺 和菓子 線香 注染

## 夏休み子ども就業



和菓子チーム



線香チーム

### 子どもたちが新たな堺名物となる商品を企画

堺市産業振興センターでは、次代を担う子どもたちに堺の伝統産業を伝承し、併せて社会の仕組みについて学んでもらうために、8月の6日間、「夏休み子ども就業体験イベント」を堺伝統産業会館で実施しました。

この就業体験は小・中学生の参加者が運営スタッフの大学生とチームをつくり、堺の伝統産業である線香、和菓子、注染の職人の方たちのご協力を得て、伝統産業の新商品企画や開発、商品コマーシャル作りなどを体験し、ビジネスや社会の仕組みを身近に感じてもらうというもの。堺市内の小・中学校を中心に募集したところ、定員30名をはるかに上回る約200人の応募があり、抽選で選ばれた参加者は和菓子3チーム、線香と注染は各1チームの計5チームに分かれて活動しました。

各チームは8月6日から9日までの4日間、それぞれの伝統産業の学習、工場見学、ものづくりなどを体験し、注染は「堺の観光手ぬぐいをつくろう!」、線香は「『新しいお

香』をつくろう!」、和菓子は「堺名物の和菓子をつくろう!」をテーマに、新商品企画をまとめ、その案に基づいて、指導いただいた職人の方が商品化しました。8月24日に出来上がった商品の宣伝方法を考え、チラシなどを作成。また、大阪府立大学シネマクラブの皆さんのご協力で、商品コマーシャル撮影も行いました。

### 子どもたちのパワーを伝統産業の活性化につなげる

最終日となった8月25日は、満員になった堺伝統産業会館の2階研修室で、チームごとに体験内容と企画商品を説明し、商品コマーシャルを上映する発表会を開催。そのあと、1階の「匠のひろば」で商品展示説明会、ショップ「堺いち」で自分たちが企画した商品の販売も体験しました。発表会では緊張気味だった子どもたちも、商品の販売では元気いっぱいになり、声も高らかに自慢の商品をPRする姿が印象的でした。

子どもたちに感想を聞くと「工場見学で体験させてもらってうれしかった」「絵を描くのが楽しかった」「みんなで



注染チーム



発表会



販売体験

# 堺の街で独自の製法が 編み出された「線香」

私たちに馴染み深い「線香」は、堺が発祥の地なのをご存知でしたか。595年に淡路島に流れついたらと『日本書紀』の中で記述された沈香が、わが国の香木の最初だとされています。その後、香りを調合するなど、わが国独自のお香の楽しみ方を育ててきました。

堺で線香が誕生したのは、天正年間（1573〜92年）に、堺で貿易商を営む小西家が朝鮮半島を経由して竹線香を日本に持ち込んだのがきっかけだとされています。竹線香とは竹ひごにお香をつけた、今の線香花火のようなものだったとか。「香木がとて高価なので、堺では独自の製法で、香木にタブノキの皮を乾燥させた粉を混ぜ合わせ、長時間香りを染め込むようにし、押し出し機を使って棒状にしたんです。それが堺線香の始まりですね」と堺線香工業協同組合専務理事の奥野浩史さん。当時、堺は海外貿易を一手に担った港として、線香の原材料となる香料が入手しやすかったことも、線香作りが盛んになった理由のようです。仏教と共に伝来したお香ですが、香りを楽しむ文化は日本独特の発展を遂げま

した。室町時代に確立した香道で聞き分けたという香りの五味「辛・甘・苦・酸・鹹（塩辛）」も、堺の線香メーカー各社の特色として生きていると奥野さんは語ります。「調合帳によって、配合の妙技が今に伝え続けられているんです」。最近では癒しの健康ブームとしても人気を集めているお香。今後は「ビューティ」がテーマだと奥野さんは語ります。「香りのリラックス効果は、肌を内側から美しくします。そこで化粧する時に使うお香の商品化を考えているんです」。新しい時代に生きる堺線香から目が離せません。



## 堺線香工業協同組合



香料や原料を調合し、線香状に押し出したものを整える。(写真は、代表理事の富田和弘さん)

堺線香のメーカーなど7社で組織する堺線香工業協同組合は、今年前年の堺薫物線香商組合の創立から数えて、110周年を迎えました。今年で第20回を数える「堺線香まつり」(10月27日〜28日)では、110周年を記念した楽しい内容が盛りだくさんに企画されています。また、6人の伝統工芸士によるコラボ商品「香の街堺」や「堺線香」は、

組合の統一ブランドとして「堺線香まつり」の会場のほか、堺伝統産業会館や堺市産業振興センター1階のショップ「アピール」で販売されています。

堺線香工業協同組合 事務局  
堺市堺区市之町東3-2-23 森島如鳩堂内  
☎072-233-4913  
<http://www.sakaisenkou.net/>



専務理事 奥野浩史さん

